

教育委員会だより

恵那市教育委員会 教育総務課

TEL 0573-26-2111

教育委員会視察研修の報告

令和6（2024）年1月発行 No.36

日にち 令和5年10月17日（火）

場 所 大阪府茨木市教育委員会事務局



（村松訓子職務代理者）

茨木市の「1人も見捨てへん教育。」別室登校の生徒に対してもスクールサポーターさん、スクールカウンセラーさん、支援員さん等、6～7人の先生方が関わるという事が凄く良い事だなと思いました。教育相談の人材を置くということ、恵那市と比べて人材が豊富で、そういった講師の先生やスクールサポーターの先生をこちらから選べるような感じだったのが凄く羨ましいなと思いました。多感な時期はいろいろな先生とコミュニケーション

にとって、多数の先生が関わってくださる事が大事である事を茨木市の教育相談の説明を聞いて思いました。そんな所を今度の南地区の中学校に活かしていけたら教育相談などが、凄く充実するのではないかと思います。

（後藤伸子委員）

茨木市の方はマンパワーがあるというか、人の力がとても充実していてアドバイザーの教授の方だったり、地域の方やスクールサポーターの方など、予算も凄くかかって潤っているのだろうと考えながら、意見を聞いておりましたが、真似できる場所はぜひ取り入れていきたいと思いました。子供にとっての居場所が沢山ある。学校に空き教室、少人数教室だけじゃなくて外に出た所でも不登校児童を受け入れてくれる教室があるというような所も、とても良いなと思いました。さらにそこで支えてくれる人も充実しており、子供達が1人1人大切にされているという事もとても感じました。

（樋田千史委員）

茨木市の視察ですけれども皆さん言われたようにパワーがあるし、指導主事というのが何十人もいるというのは凄くと思います。根本にあるのは生きる力をどうやって育てていくかという事です。その為に指導主事さんも大事だけれども、もう1つ外部の大学の教授さん達を利用という言葉は悪いですが、招いてその人達の話聞く。話を聞いて筋を立てて実践していく。そういう構想建てが茨木市の教育委員会にはありました。大変良い事だと思います。恵那市でもこの前、三郷小学校の運動会へ行って選手リレーや子供達のリレーを見ました。走る格好は本当に良い。やはりあれは青戸先生からの指導が本当に効いてるんですね。さっきの茨木市ではないけれども外部の力を上手く使えば本当に子供達に力が付いてくるというように思いました。

笑顔であふれた二十歳を祝う会 恵成式

(生涯学習課)

令和6年1月7日(日)、新しく20歳になった方を祝う「二十歳(はたち)を祝う会 恵成式(けいせいしき)」が恵那文化センターで開催されました。今年は平成15年4月2日から平成16年4月1日生まれ523人の対象者のうち、427人が参加しました。

市内8中学校の中から選ばれた16人の実行委員が、8月から会議を重ねて式典の内容を創り上げてきました。今年の記念品は、オリジナルデザインのスマートフォンスタンド。当日の司会

進行も実行委員が主体となって行

いました。テープカットや客席の新二十歳が夢や目標などを語る「客席の新二十歳へインタビュー」コーナーなどがあり、会場は新二十歳の笑顔であふれました。

屋外には、中野方町の澤村紀子さんが作成したフォトスポットも設置されました。風船で作られたアーチの中で、旧友たちとの写真撮影を楽しみました。



小平奈緒さんスケート教室&講演会を開催

(スポーツ課)

令和6年1月8日(月・祝)に2018年平昌オリンピック女子500メートル金メダリストの小平奈緒さんによるスケート教室と講演会が開催されました。

クリスタルパーク恵那スケート場で開催されたスケート教室は、コーチの結城匡啓信州大学教授と指導にあたり、市内外から87名の小中学生が参加され、「ペンギンみたいに」などとアドバイスをもらい、小平さんの真似をして歩いたり片足で少し滑ったりして練習し、後半には小平さんと一緒に滑るなどして、気持ちの良い汗を流しました。

恵那文化センターで開催された講演会は約600人の参加者があり、小平さんは、スケートを始めた頃から引退までを写真や映像とともに紹介。上手い出来ない時や挫折した時の心の持ち方、考えることの大切さ、他人との比較でなく「自分が主役」として臨むことの大切さなどを語りました。



スケート教室の様子



講演会の様子